

同志社大学

2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年4月4日提出

所 属	職 名	氏 名
経済学部	教授	新関 三希代
研 究 題 目	行動ファイナンス—株式市場における第3者割当増資—	
研 究 成 果 の 概 要	<p>これまで、ファイナンス市場における価格決定メカニズム、とりわけそのリスク（不確実性）について、理論的・実証的に研究を行ってきた。その際、「投資家は全て合理的に行動している」と仮定してきたが、この伝統的ファイナンス理論における仮定では、現実の市場メカニズムを説明するのに限界がある。実証的に、いわゆるアノマリーの存在が確認されているのだ。このアノマリーに関して、行動ファイナンス理論を用いて実証的に分析を行っている。</p> <p>今年度は、中国において近年急増している第3者有割当増資が株式市場に与える歪みについて、日米の株式市場と比較しながら長期的な実証分析を行った。</p> <p>とりわけ、日米では見られないプレミアム状態での新株発行と日米と共通するディスカウント状態での新株発行について、その超過収益率の長期的推移について分析を行った。また、成長性の低い企業と高い企業で増資後の長期的株価パフォーマンスが異なるか、実証分析を行った。</p> <p>結果、成長性が低い企業の株価は、増資後アンダーパフォーマンスする傾向があること、成長性の高い企業ほどプレミアム状態で増資が行われており、増資後の業績も良いことが実証された。その要因について、とりわけ投資家の自信過剰による特性については、今後の検討課題としたい。</p>	